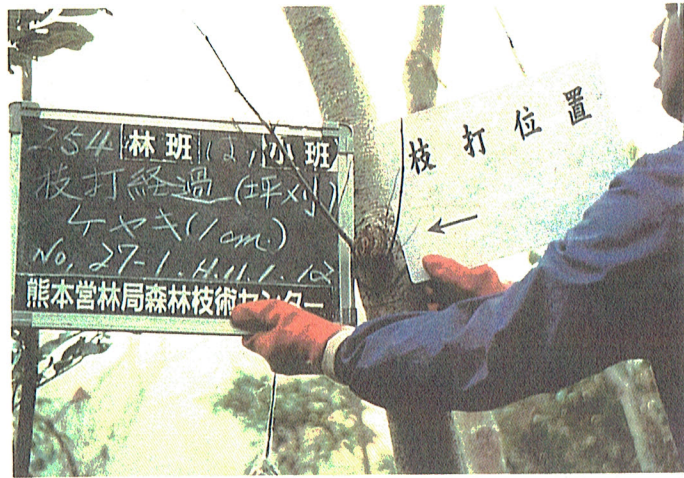


# 状況記録写真

区分	
----	--

(様式6)

森林技術センター



平成10年度254は、枝打経過

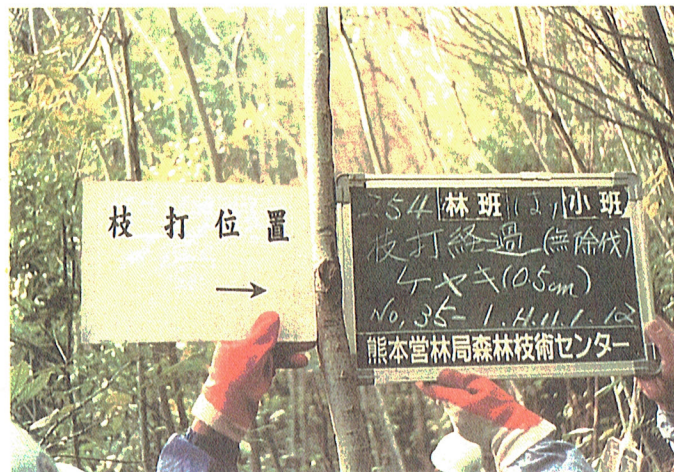
平成11年1月12日撮影

# 状況記録写真

(様式6)

区分	
----	--

森林技術センター



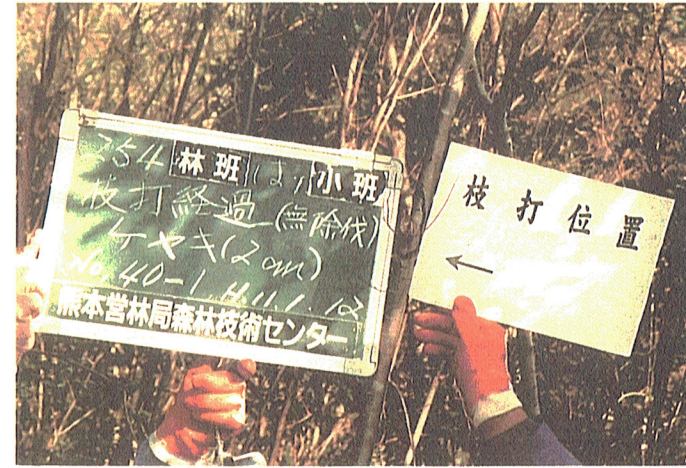
平成10年度254は、枝打経過  
平成11年1月12日撮影

# 状況記録写真

区分	
----	--

(様式6)

森林技術センター



平成10年度254は、枝打経過

平成11年1月12日撮影

平成 1 1 年度技術開発実施報告書

様式 2-2

No. 1

<p><b>課題名</b></p>	<p>高品質材生産林における若齢林の枝打技術の確立 (その2)</p>			
<p>課題区分</p>	<p>自主課題</p>	<p>開発 個 所</p>	<p>去川国有林 254は<sub>1</sub>林小班</p>	<p>開発 期 間</p> <p>平成8年度 ～ 平成13年度</p>
<p><b>当年度別実施計画</b></p>		<p><b>当年度実施報告</b></p>		
<p>1, 巻込状況調査</p> <p>2, 実施結果</p>	<p>1, 巻込状況調査 各樹種調査木を、写真記録台帳に現況を整理及びスライド撮影し保存</p> <p>2, 実施結果 ア, ヒノキ 枝打ち方法4タイプとも樹勢への影響は現段階では見られない。 イ, ケヤキ 幹に密着及び幹と45°・35°の角度で切断する3タイプとも切断面の腐れも見られず巻き込んでいる。その中でも幹に密着して枝打ちを実行した切断面の巻き込みが速いようである。切断面の直径2cm程度のものはほぼ巻き込みを完了している。 幹から0.5cm・1cm・2cm枝を残して切断する3タイプとも残した枝から不定枝が発生した。</p>			